

The Rotary Club of KOBE-NORTH

Weekly  Bulletin

NO.15 通算2004回

2016~2017年度RIテーマ



人類に
奉仕する
ロータリー

ROTARY SERVING HUMANITY

クラブ会長のテーマ

「元気で楽しい例会を」

— 身体も心も —

会長 八十島 典子 幹事 茅園 建新

今週の例会プログラム(10月28日)

「ギター演奏会」

奏者:平島 謙二氏

担当:大久保 憲明会員

ソング:故郷の空

次週の例会プログラム(11月4日)

「ロータリー財団月間に因んで」

矢野ロータリー財団委員長

ソング:君が代・日も風も星も



【平成28年10月21日の例会より】

会長報告(八十島会長)

朝晩、めっきり冷え込んできました。体調管理に気をつけてください。まずは、うれしいお知らせです。山田会員がロータリー財団に多額の寄付をしてくださいました。ありがとうございました。

今日、地震がありました。その時何をすべきかを再度確認してみる機会となりました。

今週は色々なことがありました。時系列でお話しします。

・10/16(日) 男子日本オープンゴルフで松山英樹氏がぶっちぎりで優勝しました。パターがうまければ、世界トップ5に入るのではないかと思います。

・10/17(月) 第1回会長幹事会があり、茅園幹事と私とで行って来ました。

議題は年4回、会長幹事会を開催。また、2/5(日)のIMの参加要請と例年のIMとは違ったものにするとのことでした。

・10/18(火) 映画監督の北野武氏(69歳)が「レジオン・ドヌール勲章オフィシエ」というフランスでは最高の勲章を受章することになりました。彼は天才の域に入ってきたのではないのでしょうか。

・10/20(木) ポリオ撲滅チャリティーゴルフへ塩谷会員と私とで参加してきました。

エントリー160名、参加148名の大所帯でした。なんと寄付金は100万円以上集まりました。私たちも微力ながら寄付を行って来ました。

・ラグビー界の平尾誠二さんがお亡くなりになりました。2~3年前にロータリーの地区大会で

例会場 ANAクラウンプラザホテル神戸 9F 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目1 TEL. 078-291-1121

例会日 金曜日 18:30~19:30

事務局 ANAクラウンプラザホテル神戸 11F 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目1

TEL 078-231-2211 FAX 078-231-2211

E-mail: info@rotarykn.com

ホームページ: <http://rotarykn.com>

講演していただきとても楽しいお話だったことを覚えています。2019年のワールドラグビー大会が日本で初めて開かれることに尽力をされていたので、それを見ずに逝ってしまわれたのは残念だと思います。ご冥福をお祈りいたします。

・ドラフト会議が行われ、阪神は白鷗大学の大山選手を第一指名、びっくりしました。

金本監督は完成形ではなく、原石から育て上げたいのでしょうか、とりあえず楽しみにしていきましょう。明日からは日本シリーズが始まります。こちらも楽しみです。

幹事報告(茅園幹事)

1. 室津ガバナーより公式訪問のお礼が届いております。
2. 来年6月10日から開催されますR.I.世界大会に向けて、地区旅行のご案内届いております。参加ご希望の方はお申し出ください。
3. 米山学友会 2680 地区幹事長 ヤン ヨンウ氏から卓話希望の申し出がありました。
4. 本日よりほろにが会の出欠をとらせて頂きます。
5. 他クラブの週報を回覧します。

委員会・同好会報告

・プログラム委員会

美崎委員長

11月の例会プログラム予定

11月4日	11月11日	11月18日	11月24日
「ロータリー財団月間に因んで」 矢野 R 財団委員長	「世界遺産・ル・コルビジエの建築物」 岡本 陽会員	「米山月間に因んで」 石田米山副委員長 石田米山副委員長	「会員卓話」 塩谷 満会員 塩谷 満会員

本日の例会プログラム

「患者にとって名医とは・・・」

西岡 良和会員

近年、医療業界では病理においては画期的な発見や技術の開発、臨床においては画期的な検査治療機器の開発、治療技術の向上、治療薬剤の開発などが日進月歩の勢いで進歩しています。

例えば癌に関して言えば今や早期発見が叶えば治る時代だとさえ言われています。現在癌に罹患すると、原則として厚労省のガイドラインに則した標準治療を受けることになります。

今年の初め、我が家は大事な家族を癌で亡くしました。発病から2年3か月の闘病生活でした。この間、私たち家族はいろんな経験をしました。

緊急の大腸へのステント留置、診断、告知、腫瘍切除手術、転移に伴う抗がん剤治療、更なる脳への転移、サイバーナイフによる放射線治療、肝臓への転移、緩和ケア病棟での看病、そして家族との別れ。この間に医療現場において多くのドクター、ナース、医療関係者と関わりました。

初めに、事前の相談もないいきなりの告知。しかも本人の前で淡々と事務的に余命宣告までされました。(摘出手術前)

私たちは余りに情の無い対応とリスクばかりを強調する外科医に失望し、セカンドオピニオンを申し出、松岡会員の同級生で手術に関して西日本でも定評のある川口ドクターに相談しました。川口氏には迅速に対応して頂き、本人にも絶対に原発部位の再発が起こらないように丁寧にきっちりと手術をするから安心して任せなさいと力強く励まされ私達家族は一筋の光明を見ることが出来ました。その後別病院の腫瘍内科を紹介され、2年後亡くなるまで治療を続けたわけですが、その2年間主治医の副院長をはじめ、多くのドクター、ナースに励まされ素晴らしい医療

